

早稲田大学環境総合研究センター・ふくしま広野未来創造リサーチセンター
第 17 回運営会議
議事録

日時：2020 年 7 月 2 日 18:00~19:35

方法：Zoom 会議

記録：朱 鉦

出席者(敬称略)

松岡俊二	早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター長
	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授
小野田弘士	早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・副センター長
	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・教授
阿部加奈子	福島県広野町復興企画課・主任主査
根本賢仁	NPO 法人・広野わいわいプロジェクト・理事長
磯辺吉彦	NPO 法人・広野わいわいプロジェクト・事務局長
南郷市兵	福島県立ふたば未来学園高等学校・副校長
菅波香織	弁護士、未来会議・事務局長
松本昌弘	福島県楡葉町建設課都市計画係・主任主査
安部 良	安部良アトリエ一級建築士事務所主宰
勝田正文	早稲田大学レジリエンス研究所・顧問
師岡愼一	早稲田大学レジリエンス研究所・顧問
永井祐二	早稲田大学環境総合研究センター・研究院准教授

オブザーバー

橋爪清成	ふたば未来学園高等学校
塩田 陸	ふたば未来学園高等学校
小磯匡大	ふたば未来学園高等学校
山浦 崇	経済産業省・復興派遣員
松島武司	福島イノベーション・コースト構想推進機構コーディネーター

事務局

李 洸昊	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・助教
中野健太郎	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・博士後期課程
CHOI Yunhee	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・博士後期課程
山田美香	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・博士後期課程
朱 鉦	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・博士後期課程

議題 1 第 6 回ふくしま学(楽)会について

- ・第 6 回ふくしま学(楽)会は、8 月 1 日(土)～8 月 2 日(日)(2 日間)に Zoom で開催する。1 日目は「学びの場」として、複数のトピックスをめぐって自由参加の講座を企画し、2 日目は RC の研究活動を踏まえた「対話の場」を設定する。

【1 日目の学びの場】

- ・「学びの場」では、「コロナと偏見」と「地域アート」という地域で最も関心があるトピックにしぼり、

講座を開催する。また、地元住民の参加を促進するため、Zoom だけでなく、パブリック・ビューイングの形式も検討する。

【2 日目の対話の場】

- ・「対話の場」は、第 1 部のテーマトークと第 2 部の対話から構成され、SI 構想の 3 つの柱に基づきそれぞれセッションを設けて議論を行う。
- ・SI 構想の第 2 の柱については、第 1 部前半に「アートに載せたメッセージ」というテーマを設定し、未来学園の生徒・建築家・地元住民・アーティストなどによりアートを通した福島の記憶の記録や地域伝統文化の継承と発信について議論する。
- ・SI 構想の第 1 の柱の活動として、第 1 部後半に「廃炉の今と先」というテーマでセッションを設ける。本セッションは、地元で実施されている 1F の処理水問題に関する検討会とコラボレーションし、未来学園の生徒・未来会議・研究者・廃炉関係者で地域社会と廃炉の関係を討論する。
- ・SI 構想の第 3 の柱については、第 2 部の対話において議論を行う。未来学園の生徒による報告や研究者間の対談、分科会、パネルディスカッションという多様な対話の形を活用する。これらを通じて、コロナ問題や福島の教訓から科学と社会の関係、さらに「災害の世紀」21 世紀における地域社会のあり方を考え直す。
- ・福島の地元住民により参加しやすくするため、地元ではパブリック・ビューイング開催の可能性も検討する。また、大学生など若者の参加の促進も検討する。

議題 2 5 大学協働事業・福島復興シンポジウムについて

- ・8 月 9 日（日）午後に復興知事業の 5 大学協働事業・福島復興知シンポジウム「地域再生と社会イノベーション」をオンラインで開催する予定である。復興知事業に参加している早稲田大学・東京大学・近畿大学・東日本国際大学・福島高専の 5 大学が協力し、福島復興に必要な国際研究教育拠点のあり方を議論する。大学関係者の他に、復興関係者・12 町村関係者・連携機関・地域住民・学生のシンポジウム参加を予定する。
- ・シンポジウムは今回 1 回のみではなく、今後も復興知事業の社会的側面の取り組みとして実施し続けたい。

議題 3 1F 廃炉の先研究会について

【今後の方針】

- ・1F 廃炉に関わる情報の非対称性という大きな課題に対応するため、1F 廃炉の先研究会の事業者・国の機関と住民・市民の間の媒介としての機能（境界知作者：Boundary Worker）の強化が必要である。
- ・「復興と廃炉の両立」を実現するため、「対話」だけでなく、住民・市民と廃炉関係者がともに新たな知恵を創り、新しい「かたち」を造る協働プロセスが重要である。
- ・50 年先・100 年先の「廃炉の先」の議論だけでなく、現在進行中の 1F の「廃炉プロセスの地域資源化」が重要であり、その具体化を構想することが必要である。

【今後の活動】

- ・ステークホルダー会合
1F 廃炉の先研究会（15 名）と東京電力（3 名か 4 名）で、1F 廃炉のあり方、特に地域社会との関係や「復興と廃炉の両立」の進め方についてのオンライン対話会合を、7 月下旬（7/20 以降）に設定する。
- ・地域対話会合
今後メンバーの選定を考慮しながら、継続的に行っていくことを検討する。なお、ふくしま学（楽）会などのほかのチャンネルの活用も視野に入れる。

【研究会メンバーの補充】

- ・新規委員：宮野廣（日本原子力学会・福島第一原子力発電所廃炉検討委員会・委員長）
- ・菅波委員から、福島地元住民の方を推薦していただき、現在調整中である。

議題 4 ふくしま浜通り文化育成と発信事業について(地域の伝統・魅力等発信支援事業申請)

- ・現在、令和2年度「地域経済産業活性化対策費補助金（地域の伝統・魅力等発信支援事業）」に申請している。本事業は、アーティスト、科学者、建築家などの専門人材が、地域の伝統・文化等の魅力を地域住民とともに発掘・再評価し、日本全国、さらに世界に発信していくことを目指す。
- ・本事業は、安部良アトリエ一級建築士事務所、広野わいわいプロジェクトのちやのまプロジェクトなどの複数団体が協力し、①地域の歴史を記録する「千年村プロジェクト」、②アーカイブ・プロジェクトの「福島アトラス」、③地域の伝統楽曲を再資源化する「再構築された音源の Zoom 収録による地域連携イベント」という3つのプロジェクトを企画している。プロジェクトの成果は今年12月に地域で発表する予定である。

議題 5 国際芸術・学術拠点構想研究会(A&S 研究会)について

- ・4月に国際芸術・学術拠点構想研究会（A&S 研究会）を立ち上げ、月2回のペースで、これまで6回の研究会を開催してきた。現在、その中間報告に向け、個別打合せも研究会と同時進行で行っている。7月末頃を目途に「中間報告（提言）」をまとめる予定である。
- ・A&S 研究会「中間報告（提言）」は、以下の4つの論点を中心にまとめていく。
 - ①これからの文化芸術、科学学術、市民社会の3者の関係性の再構築
 - ②「災害の世紀」・21世紀におけるサステナビリティとレジリエンス
 - ③新たなイノベーションを可能にするアート・デザインと科学技術
 - ④COVID-19 パンデミックの教訓と地域社会のあり方
- ・中間報告の内容は、ふくしま学（楽）会や5大学協働シンポジウムなどで発表する予定である。

以上